

異常高温が続いています。穂肥対応と飽水管理の徹底を!!

- 葉色の淡いほ場が見られます。
後期栄養確保のため、早急に追肥しましょう。
- 当面、異常高温が続く見込みです。
飽水管理を徹底し、稲体の活力維持に努めましょう。
- ほ場ごとに出穂期を把握しておき、早めに収穫作業計画を立てましょう。

1 コシヒカリ生育概況（7月30日調査）

草丈…	100	cm	（指標比	118%	、	長	）
茎数…	405	本/m ²	（同上	109%	、	やや多	）
葉色…	30.0	（葉緑素計）	（指標差	-3.5	、	淡い	）
葉数…	13.9	葉	（同上	+1.1	、	早い	）

穂肥が施用されたほ場では葉色の低下が緩やかとなっていますが、指標と比較すると依然として淡い傾向です。

2 気象予報(新潟地方気象台発表)

- 7月28日に発表の「新潟県の天気予報（7日先まで）」によると、7月30日から最高気温は32～38℃と高温が予想されています。
- 7月24日に発表の1か月予報では、引き続き太平洋高気圧に覆われ、気温は高い見込みです。

3 当面の対策

(1) コシヒカリの後期栄養確保

- 穂肥を施用していないほ場や、施用しても葉色が淡いほ場は、早急に追肥をしましょう。
- 後期栄養確保のため、窒素施用量は10a当たり1～2kgをめやすにします。

表 コシヒカリの3回目穂肥（または追加穂肥）のめやす

区分	判断時期・葉色（SPAD値） のめやす	追肥時期	施用量 窒素成分 (kg/10a)
分施体系 (化学肥料)	出穂期3日前でSPAD値31～33以下	出穂期3日前	1～2
全量基肥 (化学肥料)	出穂期のSPAD値が34を下回ると予想される時	走り穂が見える頃まで	

※減化学肥料栽培等特別栽培の場合は、使用する肥料や時期について各所属の方針や指導に従う。

(2) 水管理

ア 地域の用水管理

7月に入り無降雨が続いているため、各地で農業用水が不足しています。節水に努めるとともに、地域で用水の利用について話し合い、公平に水田に水がかけられるようにしましょう。

飽水管理を徹底し、完全落水は、出穂期25日後以降としましょう。

イ 台風（フェーン）対策

出穂期から出穂7日後までは、最も風害（フェーンやダシ風）の影響が大きい時期です。この時期の被害は、止葉の損傷、白穂の発生、籾の汚損などの症状となって現れます。

強風やフェーン、異常高温が予想される場合は、事前に湛水するなど早めに対応しましょう。

高温に伴う新潟県緊急情報が発出されています。次のアドレスをご覧ください。
<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/460484.pdf>

(3) 病虫害対策

ア 高温年次は、斑点米カメムシ類の被害が懸念されます。①農道畦畔の継続的な草刈り、②液剤や粒剤など、剤型に応じた適期防除を行いましょう。

また、早生の出穂期が早まったことから、地域の共同防除と出穂期の間隔が大幅に空く場合は、早生の出穂期7日後を目途に、追加の個人防除を行いましょう。

イ いもち病に弱い「新之助」「わたぼうし」は、ほ場を確認し、病斑を発見したら直ちに薬剤防除を行いましょう。

ウ 紋枯病は高温年に発生しやすくなります。前年多発生したほ場や茎数過剰なほ場を中心にほ場を観察し、発病株が多い場合は薬剤防除を行いましょう。

(4) 熱中症対策

疲労の蓄積は、農作業事故につながります。野外、屋内に関わらず作業を行う際には十分休息をとって、水分補給をしっかりと行い、熱中症予防を心がけましょう。